

「にほんの里100選」は、全国から応募があった2千地点以上の候補地から「景観」「人の営み」「生物多様性」を基準として選ばれた。どの里にも実にさまざまな特徴と魅力があるが、今回は「海の恵みとともに」「ふゆみずたんぼ（冬も水を張る田んぼ）」「暮らしを守る石垣」という三つの視点から、いくつか里を訪ねてみた。

## 暮らしを守る石垣

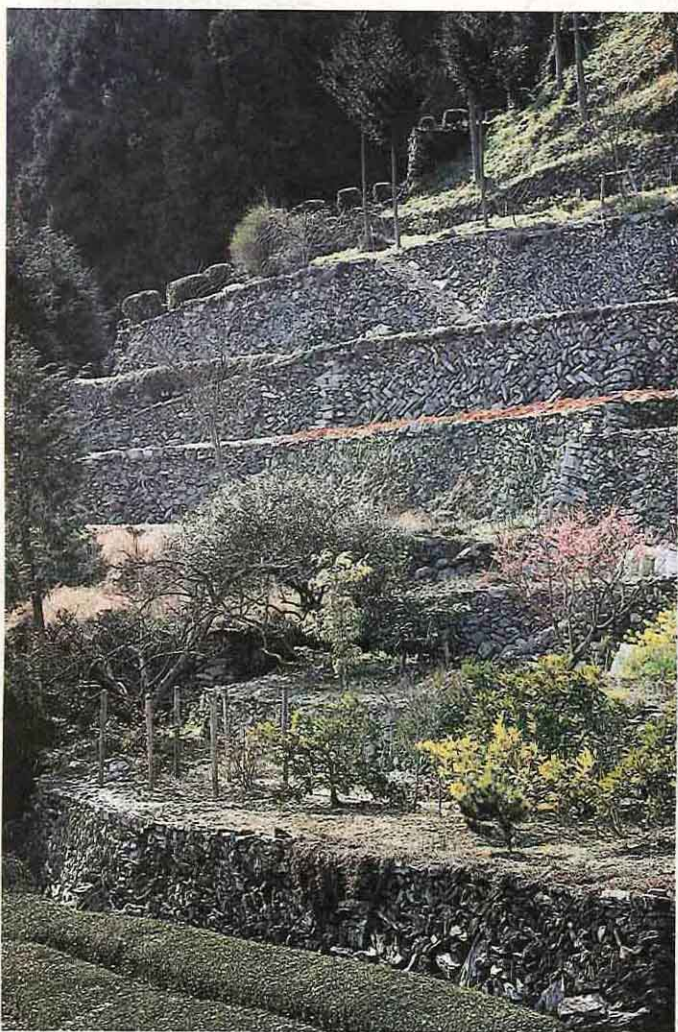
徳島市中心部から車で約1時間半。徳島県吉野川市大神地区にある大神高開の石垣は約30段、高さ150㍎、幅約500㍎にわたって広がる。見上げると、山肌はまるで石の壁のようだ。

日当たりが良く、耕作に適した南向きの急斜面を有効利用するため300年以上前に造られたといわれる。「高開」姓の農家が4軒集まっていることから、地元の人たちは「高開集落」「高開の石積み」と呼ぶ。国の文化的景観重要地域に指定されている。

石垣の段々畑では、以前は主に麦やタバコが栽培されていた。現在は菜の花やミョウガが中心。地元の人には「暖かいので狭い土地でも収穫量が多い」という。

石垣は、信仰の対象でもある。「お舟つつあん」と呼ばれる家ごとの守り神が、石積みを作った祠

### おおがみたかがい 大神高開（徳島県吉野川市）



山肌にそびえるような大神高開の石積み  
＝徳島県吉野川市美郷、小宮路勝撮影

れから守ってくれるだけでなく、努力・忍耐することの大切さも教えてくれる」と話す。

段々畑にはいま、梅や菜の花が咲き誇り、甘い香りが漂う。4

月になれば、赤や白色のシバザクラの花が石垣を覆うように咲く。大神高開が華やかに彩られる。

（高橋雄大）

## 畑と家を支え続けて300年

に祭られている。豊作や子宝祈願、水よけなど家によって異なる。

地元有志が01年、石垣をライトアップするイベントを催し知名度が上がった。このころから石垣の

手入れを体験するツアーが始まり、毎年夏になると、徳島や大阪から大学生が訪れる。石垣で守られた家に住む石大工、高開文雄さん(76)は「石垣は崩れてしまうと手間がかかるので、崩れる前に汗水流して直すことが大切。土砂崩

れから守ってくれるだけでなく、努力・忍耐することの大切さも教えてくれる」と話す。

段々畑にはいま、梅や菜の花が咲き誇り、甘い香りが漂う。4

月になれば、赤や白色のシバザクラの花が石垣を覆うように咲く。大神高開が華やかに彩られる。

（高橋雄大）